

■白井鉄造 演出家・脚本家。宝塚歌劇でヒット作品連発し、“レビューの王様”とよばれた。

しらいてつぞう

♫7/国産化・1900＝ 静岡県周智郡の山村で、指物師白井松作の長男に生まれ、虎太郎と名付けられる。

日露戦争終・1905＝ 5歳：

伊藤博文暗殺1909＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝12歳：

大正政変・・・1913＝13歳：

生活が苦しかったことから、

小学校卒業とともに、浜松の日本形染会社に集団就職、初めて海を見て驚く。

日本楽器製造を中心に草創期の国産楽器メーカーが集まり音楽が盛んな町で、仕事が終わると地元の合唱団に通い、_歌手を夢見るようになり、

ロシア革命・1917＝17歳：

_上京、高折寿美子にレッスンを受け、浅草オペラの歌手兼演出家岸田辰弥(劉生の弟)を紹介され、弟子入りして新星歌劇団に入団、岸田の体格に圧倒され、歌手あきらめて俳優に転向、地方巡業などするうち、

本格政党内閣1918＝18歳：

♫♫仁条約・1919＝19歳：

_小林一三の宝塚歌劇団にスカウトされた岸田に連れられ、男子俳優養成の選科に入り、鉄造と改名するも解散となり、奇術の松旭斎天華一座で過ごした後、

原敬首相暗殺1921＝21歳：

_宝塚音楽学校助教授として入団、バレエの指導・振り付けを担当する。

水平社結成・1922＝22歳：

_処女作のお伽歌劇「金の羽」を発表する。

関東大震災・1923＝23歳：

治安維持法・1925＝25歳：

娘役のトップスターだった沖津浪子(本名かつ)と結婚。

金融恐慌・・・1927＝27歳：

*洋行から帰国した岸田のレビューで大ヒットした「モン・パリ」の振付けを一人で受けもち、日本初のライندگانで観客の度肝を抜く。

共産党事件・1928＝28歳：

_活躍が認められ、小林の命を受けて欧米視察に出、ニューヨーク・ロンドンを経て、

海軍軍縮条約1930＝30歳：

_レビュー全盛期のパリに到着すると、そこに腰を落着ける決心をして長期滞在、多くのものを吸収し、_帰朝みやげの「パリゼット」は脚本・演出・振り付けを担当し、パリでシャンソンとして大流行していた曲に作詞した主題歌「すみれの花咲く頃」はその後の宝塚愛唱歌となった。

満州事変・・・1931＝31歳：

「セニョリータ」「ローズ・パリ」と、_全て一人で受け持ちながら、立て続けに作品を発表し、

帝人疑獄事件1934＝34歳：

_最高傑作「花詩集」を経て、「サルタン・バンク」「ブーケ・ダムール」「トウランドット姫」などを上演、

二二六事件・1936＝36歳：

_黄金時代の宝塚に貢献して、やがて“白井レビュー”が別格扱いになり、

日中戦争始・1937＝37歳：

1年間の欧米を視察後、

第二次大戦始1939＝39歳：

_遂に歌劇団の理事長となるが、軍国化路線に合わすことができず、松竹移籍の噂なども流れたため、

大政翼賛会・1940＝40歳：

*退団して小林の主唱する{東宝国民劇}に移籍、小夜福子主演「木蘭従軍」をつくる。

日米開戦・・・1941＝41歳：

男性加入の創作ミュージカルの先駆「エノケン竜宮に行く」などを手がけたが、

創価学会検挙1943＝43歳：

_{{東宝国民劇}が解散すると、

年金+総武装 1944＝44歳：

愛知県二川村に_疎開して、表舞台から姿を消す。

敗戦・・・・・・1945＝45歳：

戦後も、二川村で畑仕事をしていたが、

朝鮮戦争始・1950＝50歳：

独立回復・・・1951＝51歳：

*宝塚歌劇団理事長引田一郎から連日電報で催促され、宝塚に復帰、誰も手出しできなかった長与善郎原作「項羽と劉邦」の歌劇化を求められ、「虞美人」として仕上げて大ヒット、表舞台へ復活。

メーデー事件・ 1952＝52歳：

_続く「源氏物語」も大ヒットし、歌劇団理事に就任。

TV放送始・・・1953＝53歳：

3度目の欧米視察。

自衛隊発足・1954＝54歳：

55年体制始・1955＝55歳：

_GHQに撤収されていた東宝劇場の返還記念で「虞美人」を再演し大ヒット、

美智子妃・・・1959＝59歳：

アメリカ視察。

安保闘争・・・1960＝60歳：

タイタイ病始・1961＝61歳：

ヨーロッパ視察。

TV宇宙中継始1963＝63歳：

東京リビッヅ 1964＝64歳：

美濃部都知事1967＝67歳：

自伝「宝塚と私」。

大阪万博・・・1970＝70歳：

日中国交回復1972＝72歳：

石油ショック 1973＝73歳：

革新大敗北・1979＝79歳：

「ラ＝パルタからづか」の制作を担当。

・・・・・・1981＝81歳：

_180本にのぼる作品を手がけ、

♫♫ニョラント♫ 1983＝83歳：

*生涯変わらなかったパリへのノスタルジーを示すかのように、外部でフランスミュージカル「シェルブールの雨傘」の演出をしたのを最後に、体調を崩して入院し、故郷の中学校に「すみれの花咲く頃」の歌碑が建てられてまもなく、没した。

産経「日本人の足跡3」、